

地下鉄短信(第46号)

平成24年11月9日発行

編集 (社)日本地下鉄協会広報部 責任者 向田正博
電話 03-5577-5182(代) FAX 03-5577-5187

- 記事 1 平成23年度末の鉄軌道駅における段差解消への対応状況について
2 ホームドア等の整備状況について

1 平成23年度末の鉄軌道駅における段差解消への対応状況について

国土交通省より、公共交通事業者等からの移動等円滑化実績等報告(平成23年度末における公共交通機関のバリアフリー化の状況)の概要が発表されました。

高齢者、障害者等の移動等の円滑化の促進に関する法律(「バリアフリー法」)の基本方針の目標に定められている1日当たりの平均利用者数が3千人以上の鉄軌道駅は全国で3,442駅あり、このうち、平成24年3月末時点で段差解消されている駅は2,788駅(81%)となった由です。

また、地下鉄事業者10社では、1日当たりの平均利用者数が3千人以上の鉄軌道駅は全国で610駅あり、このうち、平成24年3月末時点で段差解消されている駅は503駅(82%)となった由です。

<平成23年度末 鉄軌道駅における段差解消に向けた対応状況について(大手民鉄、地下鉄を抜粋)>

(平成24年3月31日現在)

事業者別	内 容	駅数(%)
大手民鉄15社計	1日当たりの平均利用者数が3千人以上の駅数	1,158
	段差が解消されている駅	1,080(93%)
	うち基準に適合している設備により段差が解消されている駅	992
	全駅数	1,632
	段差が解消されている駅	1,372
うち基準に適合している設備により段差が解消されている駅	1,127	
地下鉄10社計	1日当たりの平均利用者数が3千人以上の駅数	610
	段差が解消されている駅	566(93%)
	うち基準に適合している設備により段差が解消されている駅	503(82%)
	全駅数	614
	段差が解消されている駅	570
うち基準に適合している設備により段差が解消されている駅	507	

*平成24年10月11日付「国土交通省記者発表資料」から、詳しくは同省ホームページをご覧ください。

2 ホームドア等の整備状況について

国土交通省では、駅のホームからの旅客の転落防止対策としてホームドア等の整備を進めているところです。このたび【平成24年9月末現在】における整備状況がとりまとめましたので、お知らせします。

(1)「全国の駅」におけるホームドアの整備状況

ホームドア：539駅（平成24年4月以降；+20駅）

《平成24年4月以降に整備された20駅》

- ・札幌市南北線 6駅（麻生～さっぽろ間）
- ・東武東上線 1駅（和光市）
- ・京王線 3駅（調布、布田、国領）
- ・小田急小田原線 1駅（新宿）
- ・東京メトロ有楽町線 1駅（銀座1丁目）
- ・都営大江戸線 8駅（両国～飯田橋～牛込柳町間）

(2) 1日あたり平均利用者数「10万人以上の駅」における転落防止対策の現状

整備済駅：119駅/235駅(51%)（平成24年4月以降；+12%）

- ・ホームドア：34駅（平成24年4月以降；+4駅）
- ・内方線付きJIS規格点状ブロック：85駅（平成24年4月以降；+24駅）

*平成23年8月の「ホームドアの整備促進等に関する検討会」中間とりまとめにおいて10万人以上の駅において「ホームドア」又は「内方線付き JIS 規格点状ブロック」の整備を優先して速やかに実施（「内方線付き JIS 規格点状ブロック」の場合は概ね5年で整備）することとされたところ。

なお、ホームドアの整備については、

- 車両扉位置の相違等の技術的課題
- 膨大な整備コスト(1駅あたり数億円から十数億円)
- 各地方自治体の理解と支援(国と鉄道事業者のみの取組みでは不十分)

等の課題がありますが、国としては

- 整備コストに対する支援(補助制度、税制特例)
- 車両扉位置の相違やコスト低減等の課題に対応可能な新たなホームドア等の研究開発の推進(補助制度)

等により速やかな普及に向けて取り組んでいるところです。

*平成24年11月7日付「国土交通省記者発表資料」から詳しくは同省ホームページをご覧ください。

(注) 必要に応じ、社内へ転送、回覧などをお願いします。

配信先を変更又は追加した方がよい場合は、新しい配信先の職名、氏名及びメールアドレスをお知らせ下さい。

本短信について、ご意見をお寄せ下さい。

連絡先： mukaida@jametro.or.jp